

# 平成27年度函館市事業評価調書

平成27年6月作成

整理番号	40	事業名	前処理し尿下水道処理委託料		事業の性質別	義務的経費	区分			
予算事項名	大事項	し尿前処理施設維持運営費		中事項	前処理し尿下水道処理委託料		部課名	環境部日乃出クリーンセンター		
事業開始年度	昭和 49 年度	根拠法令等	あり	<input checked="" type="checkbox"/> 法律・政令・省令名(廃棄物の処理及び清掃に関する法律, 下水道法等) <input type="checkbox"/> 道条例, 規則, 要綱等( ) <input type="checkbox"/> 市条例, 規則, 要綱等( )					電話番号	56-3258

## 1. 事業の目的・必要性と内容 (PLAN) ※この事業を行う目的・必要性は何か。どのような取組を行っているのか。

目的・必要性	<p><b>【目的】</b> 市内で生ずるし尿および浄化槽汚泥について、し尿処理場において夾雑物除去等の処理を実施し、適正な中間処理をする。</p> <p><b>【必要性】</b> 廃棄物処理法により、市内で生ずる一般廃棄物については、市が生活環境の保全上支障が生じないうちに収集・運搬および処分をしなければならないことから、し尿および浄化槽汚泥を同法や悪臭防止法等の各基準を遵守した適正な中間処理するために設置したし尿処理場について適切、効率的な維持管理が必要である。</p>
内容	し尿処理場で受け入れたし尿および浄化槽汚泥の全量を前処理した後、約半分をし尿一次処理施設で中間処理を行い、残り半分について企業局下水道処理施設に処理を委託している。

## 2. 概算総事業費 (DO:コスト) ※事業を行うための費用の状況はどうか。コストがどれくらいかかっているのか。

(単位:人,千円)

		平成24年度決算	平成25年度決算	平成26年度予算	平成26年度決算見込	平成27年度予算	平成28年度予算要求
事業費 (A)		69,537	69,537	71,524	71,524	71,720	0
特定財源	国・道						
	市債						
	その他						
一般財源		69,537	69,537	71,524	71,524	71,720	
事業を実施するために必要な人件費 <small>※人工は小数点第3位を四捨五入しているため、実際に人工がかかっている場合も0で表示されている場合がある。</small>	職員	人工 0.03 225	人工 0.03 217	人工 0.03 219	人工 0.03 219	人工 0.03 225	人工 0.00 0
	嘱託職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	臨時職員	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0	人工 0.00 0
	人件費 (B)	225	217	219	219	225	0
総事業費計 (A+B)		69,762	69,754	71,743	71,743	71,945	0

3. 活動実績 (DO:アウトプット) ※目的を達成するためにどのように取り組み、その実績はどうか。

活動指標名	単位	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
下水道処理委託量	kL	30,660	30,660	30,660	

4-1. 成果等 (DO:アウトカム)

※事業の成果指標は何か。

成果指標	受け入れし尿等の全量処理し尿等処理における各種排出基準の達成
------	--------------------------------

4-2. 成果等 (DO:アウトカム) ※事業を実施し、どのような成果が得られたのか。

事業の成果等	し尿等の処理を分散することにより、年間を通して安定かつ適正なし尿処理を行うことができるとともに処理コストの低減を図っている。
--------	--

5. 事務事業の点検 (CHECK)

評価項目	評価内容	評価内容の説明	評価項目	評価内容	評価内容の説明	
必要性	事業の市民ニーズ	評価対象外	コスト・負担	コストの節減度	節減できている	受け入れたし尿等の全量をし尿処理場で処理するよりも、コストの節減が図られている。
	市の関与の妥当性	法令・条例等の根拠により関与が妥当		将来コスト増減見込み	現在と変わらない	
				受益者負担の適正度	評価対象外	
成果・有効性	成果の達成状況	達成している	執行方法	外部委託の可能性	すでに実施	受け入れし尿等の全量をし尿処理場で前処理後、下水道処理施設に処理委託することが望ましいが、下水道処理施設の受け入れ処理能力が決まっており、現在以上の処理委託は不可能である。
	事業目的実現のための手段	現手段が最適		実施方法の効率性	評価対象外	
評価結果から明らかになった課題事項など		し尿等の受入量は減少傾向にあり、その処理については下水道処理施設を活用した方が処理コストの低減に繋がるため、引き続き下水道処理施設を最大限活用して処理を行っていく。				

6. 今後の改善策 (ACTION) ※今後改善する点は何か。どのように進めていくか。

今後の方針 (改善・見直し内容)	基本方針	(事業について) 旧函館市の一部および東部4支所管内の大部分の地域では、下水道を整備する計画がなく今後においてもし尿等の処理が必要であるため、し尿処理場と下水道処理施設を併用して処理を継続していく。
	当面現状維持	(経費について) 委託単価については委託先である企業局が積算しているが、受け入れるし尿等の処理に係る経費について原価を積み上げて算出しているため、さらなるコスト削減はできない状況にある。

参考:他の自治体の状況

比較参考値 (他の自治体の類似事業の状況など)	
----------------------------	--